

大学名	明治大学		
University	Meiji University		
外国人研究者	王 源		
Foreign Researcher	Wang Yuan		
受入研究者	姫野 伴子	職名	教授
Research Advisor	Himeno Tomoko	Position	Professor
受入学部/研究科	国際日本学部		
Faculty/Department	School of Global Japanese Studies		

<外国人研究者プロフィール/Profile>

国籍	中国
Nationality	China
所属機関	外交学院
Affiliation	China Foreign Affairs University
現在の職名	准教授
Position	Associate Professor
研究期間	2014. 7. 10~2014. 9. 10
Period of Stay	July 10, 2014 - September 10, 2014
専攻分野	日本語学
Major Field	Japanese Linguistics

<外国人研究者からの報告/Foreign Researcher Report>

<b>①研究課題 / Theme of Research</b>
コミュニケーションにおける日中配慮言語行動
<b>②研究概要 / Outline of Research</b>
コミュニケーションにおいて、話し手は情報の伝達のみでなく、相手との対人関係をなるべく良好に保つことにも配慮して行動する。言葉を伴って相手に配慮を示す行動は、社会や言語が異なっても普遍的に存在すると考えられる。しかし、同じようなことを達成する場合でも、異なる文化や異なる言語間では、配慮言語行動に違いが見られる。本研究は相手からの「申し出」、「助言」、「勧誘」、「依頼」という四つの行為に対する断り場面を設定し、中国人大学生と日本人大学生を対象としてアンケート調査を行い、行動展開の仕方と言葉の選択と言語表現形式という三つの側面から日中の配慮言語行動を考察した。
<b>③研究成果 / Results of Research</b>
滞り期間中、明治大学の姫野先生のご指導の下で、他大学と研究機関の研究者とも意見交流し、収集したデータを分析・考察した。考察の結果、四つの行為に対する断り場面の捉え方には、日中の相違が見られた。その背景には、「配慮」すべきだと考える要因が日中で異なることがあると考えられる。日本人は「断る」ことが生じたら、相手に負担をかけるため、自分と相手は対等ではなくなる。そのため<感謝>や<詫言>を述べ、相手の負担を補う。つまり、相手を<感謝>や<詫言>によって、相手を持ち上げる「低い立場」になっていることになる。一方、中国人は、利益・恩恵の観点よりも相手と自分が親しい関係であると捉えていることを積極的に表現して「配慮」を表す。日中では配慮言語行動が異なるため、同じ場面で「配慮」しているつもりでも、配慮とは受け取られず、問題となり得ることを指摘した。
<b>④今後の計画 / Further Research Plan</b>
実際に、本研究と同じ調査を中国人日本語学習者に対しておこなった回答には、摩擦を生む可能性が見られた。中国人日本語学習者は、接触場面ではそれぞれの目標言語の能力不足と受け取られるかもしれないが、実際に異文化コミュニケーションにおいては、母語での配慮言語行動を持ち込んで接触すると摩擦や誤解を起しかねない。日中で配慮の仕方が異なることは日本語教育においても教えていくべきである。今後、中国人日本語学習者にもアンケート調査を行い、更に学習者の回答についても分析を進めたい。また、質問紙調査から得た結果をふまえ、異文化コミュニケーションの観点から、日本人、中国人それぞれが、相手の行動(特に自分たちと異なる行動)に対してどのように感じるかを調べ、日中のコミュニケーションパターンやものの考え方、行動の仕方を考察したい。

<受入研究者からの報告/Research Advisor Report>

①研究課題 / Theme of Research

コミュニケーションにおける日中配慮言語行動

②研究概要 / Outline of Research

王源氏は来日後、春学期期間中は受入研究者の学部および大学院の授業を見学・参加し、学部生・院生と意見交換を行った。また、学部生・院生を対象としたアンケート調査を実施するとともに、中国で中国語母語学習者の断り行動を収録したビデオを母語話者に視聴してもらい、学習者の言語行動に対する評価を調査する機会とした。

受入研究者は王源氏と5回にわたる個別面談を行い、収集したデータの分析方法や枠組み、考察の方向性について指導した。王源氏はその成果を講演会において発表し、受け入れ教員以外の関連分野の教員や院生からもコメントを得て、有意義な議論を行った。

③研究成果 / Results of Research

データの分析・考察の結果、断り行動における日中母語話者の違いが明らかになった。その成果は、「コミュニケーションにおける日中配慮言語行動—4つの断り場面の分析から—」という論文に結実し、学術雑誌に投稿済みである。

接触場面での誤解や摩擦が生じる原因の一つが日中の配慮言語行動の相違であることを実証的に示したことは非常に意義深く、今後、日本語教育の不備を改善して、摩擦を回避するための教育につながる事が期待される。

④今後の計画 / Further Research Plan

日中の人的交流を拡大・深化させていくうえで、日本語教育の果たす役割は大きい。そして、構文力や語彙力だけでは培うことのできない社会語用論的能力に留意した日本語教育を実施することは、無用の摩擦や誤解を避けるために必須かつ重要な課題である。

王源氏は、この分野において中国における教育・研究をリードする若手の研究者として、ますますの活躍が期待できるので、今後も連絡を保って、論文等へのコメント・指導を行うとともに、王源氏の来日の折、また受入研究者の訪中の折に、研究交流を進める予定である。